



2002年12月号 通巻第25号

# スカウティング茨城



日本ボーイスカウト茨城県連盟  
広報専門委員会 編集・発行  
<http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/>

## ボーイスカウトにおける原点回帰 及び諸問題の解決策検討会

10月に入ってボーイスカウトの在り方や組織、各隊の活動等を巡る県連の活動が活発になってきた。

まず、6日に東京で指導者養成訓練体系検討特別委員会の「公開討論会」が、12-13日には「誰のためのスカウティングか、何のためのスカウティングかセミナー」が鈴木総コミッショナーを迎えて、県青少年会館で実施され、さらに10月26日に県指導者養成委員会主催の「カブスカウト・ボーイスカウト課程における原点回帰および諸問題の解決策検討会」が、同じく県青少年会館で開催された。

特に「原点回帰および諸問題の解決策検討会」は、そこで提案されたことが理事会に提出されることから、活発な議論が交わされた。また、並行して開催されていた「将来構想委員会」も参席し、進むべき方向を確認していた。

それでは、当日の様子から要旨を抜粋してご報告しよう。

### 1. 基調講演「カブ・ボーイ課程の基本を見直そう」

山田 隆士 副理事長

●社会の変化と教育会の動向として、「生きる力」の育成が求められている。また、学校評価と説明責任の時代になってきた。ボーイスカウトにおいても、年度ごとの目標設定とその評価、保護者に対する説明責任は避けて通れない問題である。

●もう一度ボーイスカウト運動の果たす役割を再認識しよう

- ①「人格」「健康」「技能」「奉仕」のバランスのとれた人間形成を目標としている



- ②「ちかいとおきて」「野外活動」「進歩制度」「班制度」「制服」「団制度」をもとに教育を行っている
- ③「国家的」「世界的」「国際的」な運動である点で、学校教育から一歩抜きん出た教育活動である



●子供に合わせるのではなく、子供がちょっと努力すれば到達する少し高い目標を示してやるのが大切。そして、それが達成できたらほめてやるとともに、さらにもうちょっと高い目標を示してやる。

### 2. 「やくそく・さだめ・ちかい・おきて」の再認識

吉田 俊仁 指導者養成委員長

●教育規定集を読み直して、各部門の活動の目標を再確認しよう。

●ボーイスカウトでは「おきて」であるのに、カブスカウトでは「カブ隊のさだめ」と隊ということばが入っているのはなぜか。それは「Pack Low パック ロウ」だからである。カブ隊のさだめがすべて人間に対して誓うものであるのに対して、ボーイ隊のおきては、それに加えて、神(仏)と国という絶対者に誓うものとなっていることに注意すべき。

●スカウト運動は、「インストラクション」ではなく「エデュケーション」である。

→「インストラクション Instruction」は教えること、教え込むこと。

→「エデュケーション Education」は子供の中から、本来もっている力を引き出すこと。

### 3. 各部門における基本動作の意味

津久井一茂 県コミッショナー

●隊集会の前後でセレモニーはきちんと運営されているか？

●セレモニーの重要性を各隊で再認識してもらいたい。

例えば、当番班長や上班に整列や司会をさせることで、子供を優位な立場に立たせて緊張させ、成長を促す効果もあることに注目すべき。

●隊集会にソングは入っているのか。もっとソングを活用しよう。

●セレモニーを隊集会の前後できちんと実施することで、スカウトに規律をもたらすとともに、隊長の姿勢を示すことができる。

●また、評価と表彰の場面を集会にどう取り入れるのか。指導者の演出力が問われる。

#### 4. 分科会

##### 課題1「カプコールをやっているか」

###### 【各隊の現状】

- ・ほとんどの隊でやっているが、それは時々やたまに。
- ・人前で行うのはちょっと恥ずかしい。
- ・カプコールの意味を知らない。

###### 【対策】

###### ◎隊で

- ・指導者の心構えの問題だ。
- ・引継ぎをしっかりとやるのが大切。
- ・すべての動作に意味があることを再認識する。

###### ◎県連で

- ・カプコールの意味を研修所やラウンドテーブルできちんと伝えているか。
- ・知識的なものは、HPなどにファクトシート\*などの形で情報提供してはどうか。

##### 課題2「組集会は実施しているか」

###### 【各隊の現状】

- ・単独での組集会は開催が難しい。
- ・デンリーダーの教育が不足している。また、多くのことを求めるとデンリーダーはたいへんという評価が。次年度からのデンリーダーの獲得に響く。
- ・隊長すらデンリーダーの役割を認識していない。
- ・組集会在存在することすら知らなかった。

###### 【対策】

###### ◎隊で

- ・隊集集中また後に組集を開くなど、運営の工夫を。
- ・女性の副長を確保しデンリーダーとのパイプ役に。
- ・デンリーダー教育の実施を。

###### ◎地区で

- ・RTでデンリーダー教育について討議、実行。

##### 課題3「GB訓練は実施しているか」

###### 【各隊の現状】

- ・GBとはなにかを知らない。
- ・引継ぎが十分でなくGB訓練自体を知らない。
- ・ほとんど実施していない。
- ・GBが集まらない。
- ・もともと隊集会に出席するのでさえ大変な現代の中2、3年に、さらにGB会議・GB訓練を課すのは負担をかけすぎではないか。



###### 【対策】

###### ◎隊で

- ・隊集会を土曜午後に持ってくることで参加率を確保している隊もある。
- ・班長は上級生でなくてもよいのでは。
- ・GB訓練の意義を見直してはどうか。技能訓練ははずし、企画・運営のノウハウを伝授することにすれば負担軽減になる。
- ・部活動を優先するのはプログラムの魅力の問題もあるのでは。
- ・GB会議を隊集会の前に行うという手もある。
- ・近隣団との連携をはかり、持ち回りGB訓練や隊集会など大人数でやったほうがよい。

###### ◎地区で

- ・合同GB訓練の実施を検討してもらいたい。
- ・合同隊集会などを年間プログラム作成時に調整して企画してはどうか。

##### 課題4「班集会是実施しているか」

###### 【各隊の現状】

- ・隊集会の後などに実施している。
- ・班長が出席せず成り立たない。

##### 課題5「問題となっていることはなにか」

###### 【現状】

- ・地区委員長のリーダーシップが必要。
- ・RTが機能していない(連絡会議になっている)。
- ・カプからボーイに役務変更になった者など指導者に対する技能訓練のニーズは高い。
- ・指導者訓練に参加したい者は多いが、長期の休暇をとることは難しい。

###### 【対策】

###### ◎地区で

- ・RTと地区委員会の機能を明確に分ける
- ・地区委員長に、地区運営のビジョンが必要。地区の運営に明確な目標と事後評価を
- ・地区コミが基準の維持にもっと積極的に関与すべき
- ・指導者のニーズを吸い上げたRTの運営

###### ◎県連で

- ・県連は地区にマル投げするのではなく、事後チェックをきちんとすべき
- ・地区が円滑に運営されているか監督すべき

###### ◎日連で

- ・指導者養成体系の見直し(特に分割開催の問題)

\*ファクトシートとは

A4一枚程度で必要情報をコンパクトにまとめたもの。



# ★国際交流レポート

「国際交流を考えよう」との視点から、実際に海外派遣(オーストラリア派遣)に参加したスカウトが、何を見、何を感じたかのレポートをお届けしましょう。

\*\*\*\*\*

## オーストラリアに行って感じたこと

第2回オーストラリア派遣隊イキッドナ班  
岩井第1団 富山 晃典

今回の派遣は、僕にとって貴重な体験となった。

本や人の話では聞いていたが、オーストラリアは、本当に自然がいっぱいだった。

それをはじめに実感したのは、2日間のホームスティの時だった。ホームスティ先のオーウェン(14才)に連れられて、山の方へマウンテンバイクで野生のカンガルーを見に行ったのだ。ホームスティ1日目、つまりホームスティ先に着いたその日に行ったときには、残念ながらカンガルーと会うことができなかったが、2日目の夕方、もう一度出かけてみると、ついに野生のカンガルーに会うことができた。僕は内心「こんなところに野生のカンガルーがいるのだろうか」と思っていたのだが、ホームスティ先の家がある住宅地から、自転車で15分くらい走ったところで野生のカンガルーを見ることができるのだ。これは本当に驚いた。感動した。オーストラリアの自然を実感した思いだった。と、同時に、カンガルーを見ながら自分はとても恥ずかしい思いがこみ上げてきた。「日本にも素晴らしい自然があるじゃないか」……と。

普段、自分は日本に住んでいながら、その自然——四季の移り変わりや動植物の様子をほとんど気にかけていなかった。都市部の住宅地に住んでいるならともかく、少しその気になれば、あちこちで自然に触れることができるのに、と思った。ましてや出かけたとしても、装備がどうのこうのと



か、そう言うことに気を使っているだけで、自然を楽しむと言うことがなかった。ところが、ここオーストラリアでは違っていた。人々は自然を楽しむということを知っているのだ。このことに気がついたとき、僕はショックだった。オーストラリアに来てみて、日本での自分の生活を改めて思い返した気持ちだった。

オーストラリアで出会う人々はみんな、気さくな人達ばかりだった。気軽にあいさつできるし、気軽に話しかけられるといった感じだった。このフレンドリーさもオーストラリアに来てみて印象に残ったことだった。

今回のオーストラリア派遣では、キャンベラ・シドニーの両市に行ったのだが、オペラハウスをはじめ、様々ないわゆる観光名所も見て回った。また、カンガルーやコアラにもさわって来た。だが、それらのものを見た以上に、生活の場のすぐ隣に当たり前のように「在る」オーストラリアの自然、そう、ユーカリの木の香り、野鳥の声、そこに暮らす人々、そして流れる時間……そんな「空気」が僕にオーストラリアにもう一度行きたいという気持ちを起こさせるのではないだろうか。

最後に、この派遣に際してお世話になった派遣団本部の方々、中島隊長、村田、佐藤の両副長をはじめとしてこの派遣期間中に一緒に生活したみんな、快く送り出してくれた家族、この派遣に関わったすべての人に心から「ありがとう」と言いたい。

# ★スカウトクイズ 25 「ワードファンド都道府県」

トウキヨトクシマカシテワイワタ  
カイルマネラマタヤマガタナボナ  
イゴカマヤカワガナカノレンキガ  
アラシアリノネイムオナサケオ  
フクイマナガタニシズオガイツオ  
ロチサムクナジホノカナメユシサ  
バカグヤラヤフンザホワカクヤカ  
リンレママギリレキフレタイオオ  
マタワリヤトチツクシクノズオク  
キリモミマウゴトヤマナシコミフ  
ノオヤタコチモウレシタカマヤカ  
アザオメンマモキヨロシイワタキ  
キイヒダクトエヨイヒトネサテラ  
タエカトテツドウドイカツホルバ  
イカワタリトツトメノメウロツイ

今回のクイズは、ことばさがし「ワードファンド」です。かくされているのは都道府県(1都1道2府42県)の名前……ん???

あれえ43県のはずだよなあ。そうなんです。1つの県名を入れずしてしまいました。その県名をさがすのが、今回の問題です。ことばは、タテ、ヨコ、ナナメ、サカサマに、とにかく直線上にならんでいます。さあ、日本地図を片手に持ってさがしてください。

官製はがきに①ことば ②所属団・隊 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号 ⑥スカウティング茨城の感想 を書いて5月30日までに〒310-0034 水戸市緑町1-1-18 県立青少年会館 ボーイスカウト茨城県連盟事務局 SC25クイズ係 へ

### ●24号の答え

17	24	1	8	15
23	5	7	14	16
4	6	13	20	22
10	12	19	21	3
11	18	25	2	9

### 正解者 おめでとうございます

- 椎名剛大くん(つくば1団)
- 助川俊太くん(日立5団)
- 渡辺 涼くん(岩井1団)
- 小貫直之くん(水戸5団)
- 満行朋博くん(土浦6団)

# キャンプサイトから ヤッホー!!

## ◎野外料理人養成講座① 「ヤマメの塩焼き」

さあ、今回から始まったこのコーナー、君たちの活動に役立つスカウトスキルを毎回紹介していくぞ。

さて、第1回目は「ヤマメの塩焼き」。もちろんニジマスでもOK。作り方は簡単だ。それでは、やってみよう!!

- ①50cm長の竹を7mm幅に割り、先を尖らせた串を作る。
- ②次に、炭火(たき火の場合は熾き火)をおこす。
- ③そして、魚のヌメリを洗い流すように取る。
- ④魚のヘソ下からナイフを刺し、前の方に向かって開く。
- ⑤内臓とエラを取り、背骨にある血合いを取って水で洗う。
- ⑥ビニール袋に塩1つまみ(1匹につき)と共に入れて、よく振ってまんべんなく魚に塩をまぶす。
- ⑦口から串をいれ、エラを通して泳ぐように串を打つ。
- ⑧たき火の脇に口を下にして、乾かすようにアメ色になるまでじっくり20-30分かけて焼く。  
(下の写真では、焼き網を使った。この場合網に酢を塗ってよく焼いてから魚を乗せると皮がくっつかない。遠火で焼こう。)



## ◎ “来る来い” の裏技 「ペグがきかない、どうしよう!!」編

地面というものは、ペグを打つために存在しているのではない。だから、打ち込みにくくて抜けやすい状態であることの方が多いよね。そこで、今回はしっかりテントを張るための裏技を披露しよう。

まず、打ち込めない地面・・・というのは、そこが岩盤だったり、石ころが多かったり、という状態がほとんどだろう? この夏にあった13NJもまさにそうだったよなあ。

### ●石で打ち込めない場合

- ①もし、近くに大きな石がゴロゴロしていたら、それに直接張り綱をかけよう。用意する石の大きさは、テントの種類や大きさ、風の有無などによっても異なる。小さめのドームテントなら20cm位、家型テントやタープ(食堂フライ)などのメインロープの場合は40cm位の石が必要となる。
- ②大きな石がない場合は、2枚重ねにしたスーパーの袋を利用する。それに砂利などを詰めて、持ち手にロープをかける。これだけで結構な力に耐えてくれるのだ。
- ③ペグを2本十文字にクロスさせ、その交点にロープをかけて置き、くの上から石をどんどん積み上げる方法もあるけれど、経験から言えば、あまり役に立たない。それならば、大きめの枝や流木をペグの代わりに使った方がいい。

### ●砂や雪などで直ぐ抜けてしまう場合

- ①まずは垂木の杭を用意する。そんなところに行くことが分かっているんだら、そのくらいは用意するのが第一。
- ②穴が掘れる場合は、30cm深の穴を掘って、2本クロスさせたペグにロープを通して入れ、砂や雪で埋める。これはけっこう使える。実際は、ペグよりも、竹や板等の幅があるものの方が当然よく利くし、貴重なペグを紛失しない。
- ③スーパーの袋も使える。これも砂を入れて埋めてしまうのだ。しかし、これは雪の場合は使えない。スルリと抜けてしまう。靴下の上からビニール袋を履いて雪の上を歩くとそれが何故かがよく理解できるはずだよ。
- ④また、ロープが引っ張る力を分散するように3-4本刺したペグにかけることも効果は大。でもそんなに余分なペグは普通持ってないんだよね。

### ●秘密兵器

いくつかのメーカーから、今回のスーパーの袋と同じ用途に使用する袋状のネットが売られている。ロープをかける場所に小さなカラビナが付いていて、なかなか具合がいい。釣具屋やホームセンターで網やネットを買ってきて、自分で作ってみることをお勧めする。



## ◎こいつは使える GOODなGOODS No.1 「スリーピング・バッグ」

ここでは、スカウティングのいろいろな場面で必要となる機材・装備(これらグッズと言う)の選び時のポイントを解説していきます。まず最初は、スリーピング・バッグ(英語)です。そうシュラフ(ドイツ語)のことですね。

さて、キャンプ生活で大切なことはいくつかあるけれど、中でも大切なことが「睡眠」なのです。安全に楽しくキャンプ生活するには、快適な睡眠をしっかりとって疲れをとり、健康を保つことが大切なのです。その快適な睡眠を得るために必要な用具が、このスリーピング・バッグなんですね。これから、いくつかのポイントごとに説明していきますから、これを読んでしっかりと選んでください。

### ●形、重さ、収納性

シュラフには「封筒(レクタングラー)型」と「人形(マミー)型」の2つのタイプがあります。

封筒型は、ちょうど毛布を2つに折ったような形をしています。ゆとりあるサイズで、特に足もとが広く気持ちよく寝ることができます。その分、身体との間にある空気が多いので暖まりにくく、重く収納する時かさばる(小さくならない)といった欠点があります。大きさや重さを考えなくていいオートキャンプなどに向いています。また横のファスナーで温度調整も可能であり、ファスナーを開くことによりマットやブランケットとしても使えます。

マミー型は体のラインに合わせたようなラインでデザインされているため、無駄な空气がなく保温性に優れています。フードをかぶってヒモをしめればさらに保温力はアップします。一般的に軽くコンパクトになりますが、コンパクトゆえに寝心地は一般には窮屈なものとなります。

### ●大きさ

市販されているサイズは、だいたい3つ。ショート(165cmまで用)、レギュラー(180cmまで用)、ロング(それ以上用)です(メーカーによって異なります)。中にはボトムアジャスターという機能で長さを調節できるものもあります。中に入って横になった時、足先に10cm程度のゆとりがあるものを選びましょう。ただし冬山や雪山などで使う場合は、ガスカートリッジやカメラなど凍らせてはいけないものを入れたりするので、更にゆとりが必要です。

### ●表面素材

シュラフの表地は、マミー型の場合は、その使用形態から軽くコンパクトになるように、リップストップナイロンという極めて細かい繊維を使用しているものが多く、裏地も多くのものがナイロンを使っています。

封筒型は、収納性よりも快適性を求めているものが多く、表地は汚れを配慮して、綿とポリエステル混紡を、裏地は肌触りのよい綿を使ったものが多く出ています。

### ●フィル(中綿=保温材)

シュラフで重要なのは、中に入っているフィル、つまり保温材です。このフィルが多くのデッドエア(対流しない空気)を閉じ込め、バッグ内部の温度(体温)を逃がさないことにより暖かく眠ることができるのです。したがって、どれだけデッドエアを閉じこめられかで保温性が変わってきます。

さて、フィルには、ダウンと化学繊維があります。ダウンは、軽い上、膨張復元性、保温性、断熱性に優れ、コンパクトに収納できます。しかし、水に濡れるとその利点は損なわ



- マミー型のスリーピング・バッグ(上)  
モンベル:スーパーストレッチ・パロウバッグ#4
- 封筒型のスリーピング・バッグ(右)  
コールマン:スーパープロモーション



れてしまいます。

一方、化学繊維のものでも、ダウンに匹敵する性能のものが数多く出てきています。化繊のものは、安価な上、汚れに強く、取り扱いが楽で、湿っても極端に保温力が低下することはないのがメリットです。

### ●性能表示

購入する前に、どんなシチュエーションで使うのかを考える必要があります。日本には四季があるため、夏も冬も1つのスリーピングバッグでカバーすることはできません。ボーイスカウトのキャンプは、主に春から秋までですから、俗に言う「スリーシーズン」のものを選ぶことになるでしょう。

最近では性能を「使用可能温度域」とか「最低温度規格」等で表示しているものもあります。緯度・高度によっても異なりますが、関東地方の平野部でしたら、最低温度規格で-0~-10℃程度のものでいいと思います。冬季は、これに毛布等を併用すればいいでしょう。

### ●その他の機能

マミー型は窮屈と述べましたが、一部のメーカーではストレッチ機能を持たせ、隙間のないフィット感と就寝時の自由な姿勢という相反する条件を満たしたものもあります。



### ●その他の快睡グッズ

まず、必需品は下に敷くマット。これは地面からの冷えを防止することが第1の役目。第2の役目は地面の固さや不整地の緩和があげられます。表面がアルミ蒸着されたエンソライトのものが安価でOKです。エンソライトは水を吸いませんがコンパクトにもなりません。アルミ面は身体からの輻射熱を反射させるためのもの・・・らしいです。

### ●最後に

私は、最低温度規格が-7℃のスリーピング・バッグ(モンベル:スーパータフバッグ#4)を20年使っています。保温材はダクロンホロフィルで、5月から夏を挟んで10月まで使います。それ以降は、封筒型のスリーピングバッグ(コールマン:マイルド、15年使用)と組み合わせています。茨城の平地では真冬でもこれで十分です。雪中キャンプ(南蔵王-13℃、裏磐梯-15℃)でもこれでぐっすり眠れました(エンソマットの下に更にダンボールを敷き、寝間着はスウェット上下+フリース上着)。しかし、赤城山で-23℃の時はさすがに寒かったですね。上にはダウンジャケットを下はスウェット2枚重ねで、ようやく眠れました。